

第3版の序

近年、疾患を治療する際に類似薬がしばしば用いられるようになり、処方の際に戸惑いを覚える医師も多いと思います。さらに多剤併用療法が一般化したため、単純に診療ガイドラインに準じた薬物療法を行っただけでは十分対応できない場合もあります。しかし、薬物を適正に使用するためには、患者の病態や合併症などを考慮して類似薬を使い分ける必要性のあることは言うまでもなく、類似薬を適切に選別するために有用な情報元が求められています。このような社会のニーズに応じて、医師が類似薬を使い分けるために必要な知識を習得することを目的として本書を企画しました。

2009年に初版、2014年に改訂版を出版しましたが幸いにも好評を博し、増刷を重ねてきました。しかし改訂版を出版して6年が経過し、その間に多くの薬物が新たに臨床で使われるようになり、さらに各種の診療ガイドラインが新たに公表されあるいは改訂されたために薬物療法の内容も大きく変わりました。このような状況の変化を考慮し、このほど内容を改訂し最新の情報に改めることになりました。

類似薬の使い分けが難しいとされる高血圧や不整脈、糖尿病などの疾患に加え、第3版では新たに薬物療法に著しい進歩のみられる「脳梗塞」「高尿酸血症・痛風」および「関節リウマチ」を加え、内容を充実させました。本書では、はじめにそれぞれの疾患における治療方針および用いられる薬物のカテゴリー（系統）ごとの使い分けについて、次いでそれぞれのカテゴリーにおける類似薬の使い分けについて、各疾患の専門家の先生方に解説していただきました。各先生方は、日々の臨床で多くの患者の診療に当たっており、本書では症例もとり入れながらわかりやすくまとめていただきました。本書によって類似薬の使い分けが適切に行われ、薬物が適正に使用されることを願っています。

最後に、本書の企画・編集にご協力いただきました羊土社編集部のお秋本佳子様にお礼申し上げます。

2020年11月

藤村 昭夫